

YMFfg

2026 VOL.14

三都エリア イノベーションマガジン

from

北 山
九 島
州 口
県 県

LOCAL
ISSUE

この世界で。この街で。このじぶん。

若い力、街が動き出す

(emerging)

5つの顔で街を束ねる | 民俗芸能のアップデート
卒業後の進路は宇宙 | 若手表現者の頭んなか



じぶんの人生から 出ていこう。

宇宙に果てがあるのか ないのか
知らない けれど。

いま ここから、
どれだけ 遠くへ 行けるのか、
ただそれを 試したい。

人生が冒険 ならば。
人生が 一度しかない ならば。
心は、感情は、精神は、
同じ地点に 居続けられる だろうか。

動けば、必ず 動き出す。
はじめれば、必ず はじまる。
仕事 という名の この冒険の
あしたを あさってを、
僕らは 幸運にもまだ 全く知らない。
仕事は、じぶんを 閉じ込めない。
むしろ 逆でしょう。 逆。

この世界で。
この街で。
このじぶん。

山口銀行 もみじ銀行 北九州銀行

YMfg

YMFGが思い描く「地域の豊かな未来」を共有するために、この街に存在する、あしたを託したい、あしたを照らしてほしい人や取り組みを紹介します。

三都を動かす
若い力がありました

[山口県]

PO6

5つの顔で下関を束ねる
日下まりあの街づくり

[広島県]

P12

民俗芸能のアップデート
現役大学生・片桐萌絵の挑戦

[北九州]

P18

卒業後の進路は宇宙
佐藤凜が描く軌道

若手表現者の頭んなか

- P11 山口県 | イラストレーター コサカダイキさん
- P17 広島県 | 映像作家 笠井美里さん
- P23 北九州 | ブレイカー Aisatsuさん

P24 YMfgのあした考 第9回
[僕たち私たちが見たい街のあした]

連載

- P26 あしたのランチ何食べる?
[山口県] 霜降山カフェ / [北九州] あったか堂
[広島県] カフェトレカサ
- P27 わたしを変えた住空間
- P28 三都の雑貨物語
- P29 ラブレター from 横浜
- P30 YMfg あした新聞



PHOTO_ 西山勲

COVER

11 (イレブン)

北九州市出身。スイスや香港などで学生時代を過ごし、2022年、本格的に音楽活動を開始。3カ国語を自在に操るリリックと強いエネルギーで注目を集め、日米を股にかけるラッパーMIYACHIにもその才能を評価される。今年4月にはヒップホップの祭典『POP YOURS』に出演。



ラッパーMIYACHIの『GOING HOME』に客演。二人は祖母が福岡在住という共通点も。

帰れる場所を持ちながら
風のように生きること

海外を歩き来して育ったので、土地や人に縛られない軽さは大事だと思ってます。それでも、いつも心が帰る場所は北九州にある母の実家。窓のむこうに稜線が見えて、家族に囲まれて、愛犬のエレがいて。北九州というホームがあるから、軽やかにまた次の場所を目指せるのかもしれない。初めてのEPはこの家で生まれました。ピュアでドリーミーな、あの頃の自分そのままの音楽。けれど音楽が仕事になった今は、期待やスピード感の中で揺れ動いてしまうことも。そんな時は、体のサインや心の違和感に耳を澄ませます。焦らず、整えて、身を任せる。軽やかでいることは、逃げるんじゃなくて、ちゃんと自分でのための選択だから。(11さん)

11さんが今年、新たにチャレンジすることは？
公式Instagram限定記事もお楽しみに。



若い力、街が動き出す



今、三都を照らすのは若い力。迷いながらも前へ進む若者たちの光は、驚くほどクリエイティブ。時に荒削りで、遊び心を忘れない人間らしさもまた、個性となって輝きを放ちます。そんな彼らと手を取り合い、未来をもっと豊かにしていくために。今回の特集では、独自の解釈で街に新たな役割を与える若手プレイヤーに注目。彼らが生み出すみずみずしい躍動と、その先に広がる三都の可能性を見つめました。

(emerging)



日下まりあの5つの顔から下関の未来を想像する

日下まりあさんが何をしているかのヒントは、名刺に書かれている。「聞く聴く話す」「書く描くまとめる」「考える進める」「編集する発信する」「下関を面白がる」。つまり、やっていることを一言で表現するのは難しいということだ。彼女が下関で行っている活動を5つの側面に分け、何を考え何に取り組んでいるのかについて話を聞くと、そこから下関の未来の可能性が垣間見えてきた。

PHOTO_大塚淑子(P06-07) TEXT&EDIT_浅野佳子

Maria Kusaka
02

メディア主宰の顔



街の「!」を見つけて広める

〈日々下関〉は、日下さんが街と関わる目線そのもののようなメディアである。面白い場所や気になる動きを日々すくい上げて伝え、投稿を見た人が実際に足を運んだり、次のアクションにつながったり。もともと個人で発信していたものに〈日々下関〉と名付けたことで公共性が生まれた。「不思議ですが、メディアの形を取ることで、さまざまな話題を“街の話”として扱えるようになりました」と日下さん。この日は関門ビルに新しくオープンした、キャンドル作家チエミサラさんのアトリエ〈no though co (のそうこ)〉を訪問。「誰かの倉庫として使ってほしい」というコンセプトに共鳴し、〈移動型書店BOOKSTAND AZUSA〉も期間限定ショップをオープンさせていた。

日々下関

@hibishimonoseki



日下さんが気になったことを発信する。ローカルメディアプロジェクト。街の変化やイベントや取り組みへの参加の呼びかけ、観光情報などをアップしている。「街を見る新鮮な視点をもらった」という反響も寄せられている。

どうしたら「まち肯定感」を上げられるか？

大学を卒業後、地元に戻り下関市立大学の大学院に進学。そのまま創業支援を手がける会社に勤めた後、独立する。ずっと軽やかに真剣に街づくりに関わり続けてきたが、疑いなくポジティブだったわけではなく、嫌いの気持ちでした。せつかく一度離れたのに、戻ってくるのが早すぎたんじゃないかと絶望的な気持ちになったことも。しかし活動を通して、下関を楽しんでいる大人と多く出会うことで気持ちに変化が生まれた。「私は、その街にいる自分が好きだと思える感覚を、自己肯定感になぞらえて、まち肯定感と呼んでいます。まち肯定感が高い人たちがと出会うと、私自身もどんな街を楽しむアイデアが浮かんでくることに気づきました」と日下さん。街づくりに「ねえねえ、この街って面白い場所だよ」と他の人に言える気持ち育てることが必要なかもしれない。

日下さんは普段から多岐にわたる活動をしており、それはすべて下関の街と関わるものだ。活動を始めた理由や内容はそれぞれ異なるが、なぜこんなに精神的に取り組みのだろうか。日下さんは次のように即答する。「何も無いって言いにくかったんです。大学進学で関西に住んだ際、友人たちとの会話で、地元には何も無いと話す人が多いことに気づき、違和感を持った。「そんなことはないはず。それって自分の街のことを知らないだけじゃないか。自分ならどう答えるだろう」と考え始めました」。

Maria Kusaka
01

本屋手伝いの顔



文化や人が集まる場所を街の中に持ち続けたい

下関市唐戸市場のほど近くで、月岡智子さんが店主を務める、50年あまり続く〈梓書店〉は、もともと郷土史を多く取り扱ってきた本屋さん。近年は街の人々が本を通じて緩やかにつながる場所となっている。店内には新刊や古書と混じって「貸棚」が設けられ、地元の人たちがおすすめの本を紹介。さらに参加者がまだ読んでいない本を持ち寄る〈積読解消読書会〉を開催したり、市の計画にパブリックコメントをするために集まったりと、活動拠点の意味合いも深い。「街のことを考えるときに、実は集まって顔を合わせられる場所が不可欠。大切な場所です」と日下さん。月岡さんも「若い人たちがここを使って、ますますここが生きてきました」と笑う。

移動型書店BOOKSTAND AZUSA

@azusashoten_karato



活動仲間である工務店の木村大吾さん特製の什器を活用すれば、イベントなど人が集まる場所に出展できる。文化と出会う場所を持ち運ぶユニークな仕組みだ。仲間と運用するInstagramも、書店からの情報発信の大切なツールになっている。

街と関わる余白を どれだけつくれるか？

目下さんは、誰もが無理なく下関と関わる
ことができる余白をどう設計するか？
に関心があるように見える。モチベーション
があつて自分からどんどん動ける人は
もちろん、仕組みさえあれば「だったら
自分も！」と参加できる人が増える。本、
音楽、イベント、社会課題、素材は何でも
OK。どれか一つに関心があれば、自然と
街との接点が生まれるというわけだ。関わ
ったことで何かがちよっと変われば、楽し
かった印象が残る。一度接点があれば、
知り合いができ、街に関わるハードルが下
がり、街について話す言葉を持てるよう
なる。やがて、まち肯定感^①が醸成される。

目下さんと仲間たちは、市の第3次下
関市総合計画の策定に参加し、その結果、
街づくりの基本理念は「可能性を築くま
ち」と定められた。「可能性」は人それぞ
れ違うが、万人の「できるかもしれない」
という気持ちを受け止める街と言え
るかもしれない。

目下さんは、ロールモデルになりたいと
語る。「おこがましいかもしれませんが、自
分自身が街の面白い大人たちに出会ってま
ち肯定感がアップしたように、私が面白
がってやっている姿を見て、
同世代やもっと若い人たちが、
こんな生き方ができるかも
しれないと自信を持つてく
れたらいいな」。目下さんは
プライベートもパブリック
も、仕事も遊びもごちゃ混
ぜです、と笑う。「その気にな
ればできることがたくさん
あるし、それが広がるポテン
シャルもパワーも持っている。
下関っていい街ですよ」。



PHOTO_ 岩原俊一

Maria Kusaka
05

社会活動家の顔

街と混ざれば、街を好きになる

「いきなり街づくりワークショップに行こうとは誘いにくいけど、ゴミ拾いしようとは誘いやすい」と、街に関わるハードルを下げるものとして、仲間と〈グリーンパード下関チーム〉を発足、月に2回ゴミ拾いをしている。「やっていると楽しくなっているし、老若男女いろんな人が参加してくれます。海外からの旅行者が来てくれたことも」。

さらに行政の計画に対して、定期的に〈#パブコメしようぜ〉活動を実施。〈日々下関〉のInstagramでも、日頃から「今、街のこんなルールが決まろうとしているよ、どう思う？」と問いかける。「計画って、行政の話というより実は自分たちの生活の話。『パブコメを出す』行為は、街を自分たちで触る表現活動の一つなんですよ」。

下関を
考えろ。
#パブコメしようぜ

#パブコメしようぜ

市の総合計画を読み解く勉強会を実施。参加者を中心に485件ものパブリックコメントが寄せられ、市のスローガンが刷新され、若者に関する指標が盛り込まれることに。声を上げれば街のルールは変えられると手応えを感じた。



下関市100人カイギ 100ninkaigi.com/area/shimonoseki



「毎回5人のゲストが登場しプレゼン。通算100人になるまで続け、参加者の交流を図る」というコミュニティイベント〈100人カイギ〉の下関版を実施。目下さんは入選の段階から参加。人脈を広げるきっかけにもなった。

Maria Kusaka
04

イベントの顔

既に街にある 資産を活用する

目下さんが企画・運営に参加するイベントには、「普段あまり使われていなかった街の資産を使う」「なかなかつなげなかった人が参加できる仕組みを組み込む」という共通点がある。例えば〈TipTie〉は街のお店でアーティストの作品を展示し鑑賞する目的のもと、街歩きを促し、誰もがフラリと立ち寄ることができるようにした。普段一般に開放されていない長府苑（旧田中隆邸）で実施した〈音楽と文楽〉は、多くの人が興味を持ちやすい本と音楽を掛け合わせた。レコードを流すだけでも古本を売ってもOKと緩やかな方法で30組の展覧、600人もの来場者があった。「街をもっと自分たちの手で使って、今までにない景色をつくりたい」と目下さんは話す。

撮影場所 - Hongō (下関市豊浦町)



TipTie @tiptie_toyou

下関市内の店舗をアートギャラリーに見立て、回遊しながら街全体を楽しむアートイベント。市民にとっては見慣れた街がアートによって違った顔を見せ、観光客にとってはまだ見ぬ下関にアクセスする機会となっている。

相談に企画で応える

目下さんのもとには、日々いろいろな相談が持ち込まれる。「若い人の採用ができずに困っている」「中学校の探求学習を手伝ってほしい」などなど。「私の仕事って何だろうとわからなくなりますが、できるかわからないことも「できます」と言うようにしています」と笑う。

そうして関わるうちに、できることも増えてきた。その一つがグラフィックレコーディングである。会議や対話の場で、図や言葉を使いながらリアルタイムに情報を整理していく手法だ。どこが話題の肝なのかを見極める力は、他の仕事の場面でも生きていると話す。「下関に関することなら何でも仕事にしたいと思っていたら、仕事と仕事がつながってきました」。

Maria Kusaka

03

企画屋さんの顔



コサカダイキ

イラストレーター

atelier-kosaka.com



今っぽい
モチーフの中に
光を描く

若手 表現者の 頭んなか

生まれ育った三都の街を
拠点に、表現者として生
きる道を選んだ若者たち。
彼らの中には、どんな思
考や衝動が渦巻いている？

- コサカさんはどのようにして今のスタイルに？
最初はよくある話で、マンガの模写をしていました。乗り物が好きだったこともあり、そのコミュニティとつながるために描くようになりました。メカニカルなモチーフは構造そのものがアートとして完成されているので、見たままに描くのが楽しいですね。
- 自分の創造の源泉だと感じるものはありますか？
乗り物を写実的に描くうちに、自分はモノそのもの

というより、“光を描くことそのもの”に喜びを感じているのだとわかってきました。モチーフより光だなんて。

— 確かに、ソリッドな造形と同時に、透明感のある色彩が魅力的です。

透明水彩絵の具を使っています。僕は全くの独学で、美術教育を受けていません。だから最近個人的に美術史を勉強し始めて驚いたのですが、自分自身の興味が、まるで一人で美術史を辿っているみたいなんです。写実的なルネサンス期を経て、今まさに光を描く印象派の時代を過ごしている感じです。実は最近では抽象にも興味が湧いてきていて、これからどうしたくなるかは未知数です。

- 地方に住みながら表現に携わる理由はありますか？
幸い山口に住みながら東京の仕事を受けることができていたので、イラストレーターとして不利だとはあまり感じていません。生まれ育ったこの街を拠点に、作家として個展などにも取り組んでみたいと思っています。かつての自分のように「絵を仕事にしたいけれどどうしていいかわからない」という人もいるはず。いつか彼らと出会ったときに「地方に住んでいてもやれる方法がある」と感じてもらえたらいいなと思うんです。

巖流島で
巖流焼を食べる

巖流本舗



宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘の地で有名な巖流島(船島)は、関門海峡は彦島方面に浮かぶ無人島。上陸後の暇つぶしには、「巖流焼」をおやつに持ってこよう。巖流焼はいわゆるどら焼きで中身が白餡。姉妹商品の「おせいぞ武蔵」は黒餡で、運刻した武蔵にあやかって。

唐戸で食べたい
喫茶ランチ

喫茶風 喫茶



唐戸バス停(山口銀行唐戸支店側)沿いにあるビルの1階の喫茶店でいただくのは、ホッとする家庭的な日替わりランチ。会社員時代、日々の癒しとなっていた昼食です。いつも女性客で満席になるのでお早めに。個人的には冬のシチューがラッキー回です。

かわいくて美味しい
お饅頭

二見饅頭



地元民なら一度は食べたことがある、優しい甘さの餡で、気づけば何個も食べてしまうかわいらしいお饅頭。JR山陰本線 長門二見駅南の(ときわ屋)本店が、梅ヶ峠駅近くのお店、豊北の道の駅など山陰方面でしか手に入らず、売り切れご免。ドライブついでお土産におすすめ。

こんなところにも
下関名物

原付の ナンバープレート



Uターンの際、関西から新門司港へフェリーに乗って、そこから下関へは人道トンネルを手押しで渡って帰ってきた、学生時代の愛車の50ccのナンバープレートが、ぶくとくじらが描かれた下関らしいデザイン。今はたまにですが、近場への足は原付です。



日下まりあがおすすめる私の日常・下関

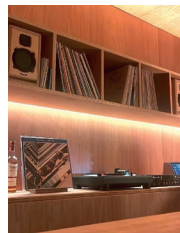


出張版(日々下関)として、日下さんが好きな下関をおすすめ。彼女の目から見える下関の景色は、みなさんの目にはどう映るだろうか？

PHOTO&TEXT_ 日下まりあ

街をもっと
好きになる入り口

music bar surge



この街にこんな夜があったのかと虜になった丸山町のレコードバー。音響を引き出す設計と暗さの中に灯りが感じられる空間で、お酒はもちろん、私はいつも下戸に嬉しいコーヒーマシーンやハーブティー。アナログ盤を高音質で聴き浸る。深く贅沢な時間をご堪能あれ。

何も無いが
ある島

むつれしま 六連島



下関駅前の連絡船で約20分。彦島大橋の下をくぐって辿り着くのは響灘に浮かぶ離島・六連島で、花卉栽培や漁業など、営みと暮らしが垣間見え、穏やかな風景が広がる「何もない」がある島。1872年の点灯以来、海峡を照らし続ける六連島灯台は桜の時期にぜひ。

ここは下関の
暮らしの市場

中浜市場 (長府商店街)



お惣菜、お肉、お魚。昔からの日常だったであろう「暮らしの市場」。お買い物で通り過ぎる人々を横に、リノベーションでコーヒースタンドや焼き菓子屋さんなども生まれていて、味のある古さと美味しさ、新しい賑わいの混ざり具合が絶妙に楽しい場所です。

海峡の景色こそが
ふるさと

火の山公園



海峡を見下ろす展望デッキ。春は桜とチューリップが彩り、戦時下の砲台跡という歴史も残る火の山は、私にとっての「下関の山」。この絵は1962年生まれの父が小1当時に描いた、まだ関門橋ができていない頃の風景。今後に控えたゴンドラ運行開始など展開も楽しみです。

お祭りと令和に生きる人とを
つないでいく通訳者になりたい



とらでいっしゅ株式会社
代表取締役 片桐萌絵

広島大学総合科学部に在学。地元・愛知県の「古戸花祭」の担い手を3歳の頃から務める生粋の祭り好き。2025年に「とらでいっしゅ株式会社」を設立し、各地の民俗芸能を飛び回る。

民俗芸能のアップデート。 大学生がひらく、祭りのこれから

幼い頃から家族総出で地域の祭りに携わるなど、祭り好きの家系に生まれ育った片桐さん。大学進学後、1年生の秋に民俗芸能に関するボランティア活動を行う学生団体を創立。その活動を通して参加したビジネスコンテストでグランプリを受賞し、より祭りのためになる活動をしよと「とらでいっしゅ株式会社」を設立した。民俗芸能の知名度向上やSNS運用、インバウンド対応、担い手の確保など、それぞれの祭りが抱える課題に寄り添いながら解決を目指す伴走型支援を行っている。

大切にしているのは、地域へと足を運び、関係者や自治体と丁寧に対話を重ねること。時には排他的なイメージもある世界だが、それでも「好き」の思いにまっすぐ民俗芸能と向き合う。「お祭りに正しく価値をつけて、参加者から体験料をいただく。素晴らしい体験なのだから、そうした発想がもっとも良いのでは」と思いました。

実際に体験料を設けて参加者を募った東広島市安芸津町「三津祇園祭」では、募集人員がしつかりと埋まり賑わいを見せたという。「民俗芸能は、本来は人々の暮らしに寄り添うもの。ですが現代では、普段の生活からその存在が離れている気がしています。だから例えば、写真に映えるから、あのお兄さんがイケメンだから、という理由でお祭りに行く、ということでも良いと思うんです。もっと人々の生活に身近になれば、お祭りが楽しい存在になるし続いていく存在にもなるんじゃないかなって。私たちが、お祭りと令和に生きる人たちをつなぐ通訳者のような存在になれたらと思っています。私自身も日常的にお祭りを楽しんでいる姿を見せたいし、同じ思いを共有する仲間を増やしていきたいです」。

地域の宝を、そして自身が惚れ込む祭りをこれから先100年、200年と持続可能なものにするために。片桐さんは今日も全国を駆け回る。



仕掛け人は現役大学生！ 民俗芸能を “ポップカルチャー”へ

現在、全国に30万件ほどあるといわれる祭りや郷土芸能。ただ人口減少や後継者不足、社会構造の変化により、地域ごとに大切に受け継がれてきたそれら民俗芸能は失われつつある。そんな現状に待ったをかけるべく立ち上がったのが片桐萌絵さんだ。広島大学の現役の学生であり、「とらでいっしゅ株式会社」を設立し代表取締役としても奮闘中。民俗芸能を守り、継承し、進化させる。その熱い思いが、地域の文化を未来へとつないでいく。

PHOTO_とらでいっしゅ提供 (一部、鷲崎浩太郎)
TEXT_住田茜 EDIT_福澤くるみ

後世へ残したい
日本の祭りは
津々浦々

Recommend by 片桐萌絵



● 潮海寺祇園祭り(静岡県菊川市)
美しいお囃子の旋律が、自然豊かな街並みに溶け込む調和が見事。



● 大山神社例大祭(広島県尾道市因島)
豊かな色彩感と、人々の気迫あふれる熱い表情に圧倒されました。



● 尾道祇園祭(広島県尾道市)
目の前でぶつかり合う人々の姿は、手に汗握る大迫力!



● 大阪天神祭(大阪府大阪市)
日本三大祭りの迫力は異次元! 大都会に現れる伝統空間に、時代を超えた繋がりを感じます。



● 豊橋祇園祭(愛知県豊橋市)
伝統的な「笹踊り」の美しさに息を呑みました。ビル街が一日だけ厳かな空気に包まれる特別なギャップが最高です。



● 中野八幡神社例大祭(広島県豊田郡大崎上島町)
地域の方が心から楽しむ様子に、こちらまで元気をもらえます。



● 神島天神祭(岡山県笠岡市)
船で神輿が登場するなど、人々の暮らした海の近さが伝わります。瀬戸内ならではの景色が大好きです。

大学生社長に聞いてみた 伝統を仕事にした理由と、理想の未来



Q いつから起業を考えていましたか?

実は、大学入学当時は「受験に失敗した」という気持ちがあり、夏休みくらいまで引きこもっていました。退学しようかと考え、最後の思い出づくりにと、中国地方の大学生が岡山県の山間地域で10日間ほど共同生活をしながら小学生とともに過ごすというフィールドワークに参加したんです。偶然ですがその地域には獅子舞があり、一緒に笛を吹かせてもらう機会があって、やっぱり自分はお祭りが好きだと思い出しました。受験の失敗を理由に何も動いてこなかった自分を反省し、どこにいても自ら動けば世界は変えられるという価値観に変わり、行動するエネルギーをもらいました。それから約1カ月後には学生団体を立ち上げて、そこでのボランティア活動が起業へとつながっていきました。

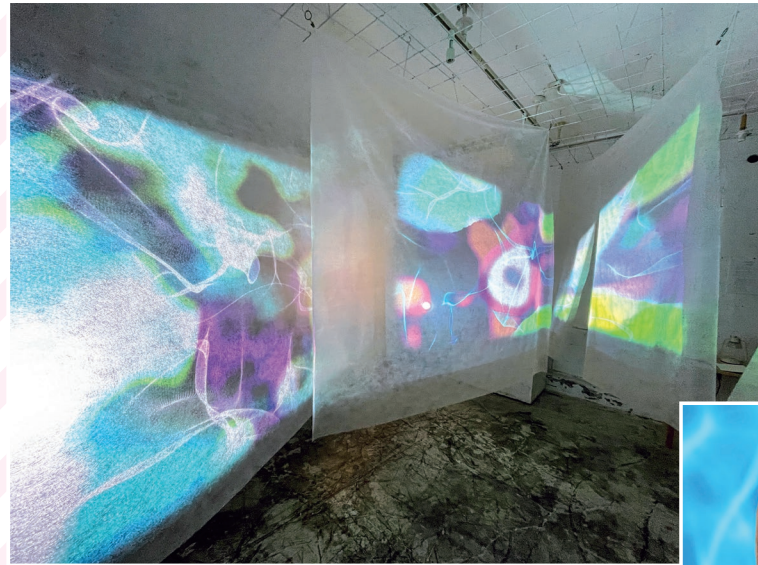
やっぱりお祭りが好き、その気持ちが行動を起こすエネルギーになりました。

Q 片桐さんが描く理想の祭りって?

一番は、地域の方々に自分たちの地域のお祭りを誇りに思ってもらえるようになること。地域の人たちがお祭りのことを好きじゃないと、お祭り自体が続いていかないと考えているからです。今は自治会やPTA活動がなくなったりして、お祭りをすることがプラスに思われていないことも多いと思います。そういう現実に触れると、良いものが地域にあるのに、その地域の方が参加しないという状況がとてももったいないと感じてしまいます。他の地域からお祭りに来ていただくことも大切ですが、まずは地域に暮らす方々がお祭りの魅力に改めて気づき、自分たちの街に素晴らしいものがあると再認識していただくこと、地域が地域の人たちによって元気になっていくことが理想かなと考えています。

Q 学業と仕事の両立はどうですか?

成績は、とても落ちました(苦笑)。ですが3年生からは自分の専門に絞って勉強できるようになり、現在は歴史学のゼミを選択して学んでいます。平安時代の古文書を読み解いてお祭りのルーツを探る、という研究をしていて、卒業論文の準備も進めています。学業と仕事の共通部分が増えてきてやりやすくなったし、教授に理解をいただいていることにもありがたく思っています。広島大学には学生起業家が5人くらいいて、コワーキングスペースなども開放されています。そこに行けば他の学生起業家もいるので、切磋琢磨しながら学業と仕事の両立を目指しているのが嬉しいです。私の事業と別の学生起業家の事業とを組み合わせ、2社合同で取り組むプロジェクトも行いました。



笠井 美里

映像作家

@misato_839



枠組みを超えて
映像表現を追求。
次世代へつなぐ
クリエイション

若手 表現者の 頭んなか

生まれ育った三都の街を
拠点に、表現者として生
きる道を選んだ若者たち。
彼らの中には、どんな思
考や衝動が渦巻いている？

— 空間の中に映像を投影したインスタレーションを制作されていますが、コンセプトはどのようなものですか？

美術館の絵画のように、見る人が自身のペースで自由に見てられる、見る人の時間を制限しない作品がコンセプトになっています。「落ち着くな」「ずっとこの空間にいたいな」と感じてもらえると嬉しいです。

— 広島で生まれ、広島を拠点に活動されていますが、地域で「アートをする」意味とは？

生まれ育った場所だからやっぱり住みやすいし、自分が活動するのに恵まれた環境だと思います。広島をテーマにした作品をつくっているかという点という訳ではないのですが、アートに関わる人との横の繋がりも強く、この場所で活動を続けたいと思っていますね。

— 一人で制作されているだけでなく、劇団にも所属されているそうですね。

はい、広島市安佐南区で活動する劇団に所属していて、演劇作品の映像演出を担当しています。演劇作品の映像は他の映像作品ではない手法でつくることが多く、挑戦しがいがあります。私のように映像演出をしている人が広島にはほほほいません。もっと増えたらいいなと思いますし、次世代の人にも広島で好きなことを仕事にできるということを伝えたいです。

— 広範囲において活動されているなかで、創造のインスピレーションは何でしょうか？

一人で制作する映像は、アナログで水彩のようなやわらかい作品が多いです。例えば散歩で川辺を歩いていて、川面に光が反射してキラキラしている様子とか、普段何気なく目にしているものからイメージを膨らませています。

PHOTO_金山翔 (ポートレート写真)
TEXT_住田茜 EDIT_福津くるみ

広島県内4つの祭りに参加した学生にインタビュー

私にとっての“お祭り”

山県郡北広島町
乙九日炎の祭典

神社と地域の歴史を学び
お祭りがより身近に



大学3年生
本田紫苑さん

お祭り好きな友人に誘ってもらいました。室町時代の雄鹿原合戦にちなんだ亀山八幡神社で行われる祭典で、地域の方から事前にこのお祭りや地域の歴史を教えていただくことができ、より深く楽しめました。高校生の神楽や大学生のよさこいなども披露されており、舞い手や踊り手といった運営側へのアクセスの良さもお祭りの継承の鍵を握っていると感じています。



豊田郡大崎上島町
中野八幡神社例大祭

同年代の参加者とともに
お祭りを盛り上げる



高校3年生
吉田杏音さん

二基の神輿が激しくぶつかり合う勇壮な伝統行事が継承されている秋祭り。貴重な機会だと思い、屋台出店で参加しました。同年代の参加者が多く、みんなで意見を出し合いながら準備する期間も含めて、当日を盛り上げることができてよかったです。今回の経験を通して、お祭りや伝統芸能の起源を学ぶことができ、私自身も伝統芸能への理解を深めることができました。

槍子投げや大名行列に参加
街への貢献も実感



博士課程前期1年生
有田浩太郎さん

前年に参加した友人の影響で、興味を持ち参加。3日間の練習を経て槍子投げを披露しました。大名行列でも地元の方に声をかけていただき、街に少しでも貢献できたかなど実感しています。実際に参加し、このお祭りを守っていききたいという街の方々の強い思いにも触れました。興味だけでは継承は難しいからこそ、勇気を出して一歩踏み出す体験が大切だと思っています。



東広島市安芸津町
三津祇園祭

山県郡北広島町
戸谷神楽団

舞の迫力と物語の奥深さ
神楽の魅力を知る



大学3年生
香月優希さん

自分の地元では神楽のお祭りがなく難しいイメージを持っており、参加する前は内容についていけない心配でしたが、実際に参加してみると想像以上に楽しむことができました。舞の動作一つひとつに迫力があり、物語も興味深く、新しい世界を知ることができたと思います。小さなお子さんも楽しんでいたので、より若い世代を中心に多くの方に魅力を知ってもらいたいです。

卒業後の 進路は、 宇宙だった。

北九州発 スタートアップ創業者

佐藤凜が 描く軌道

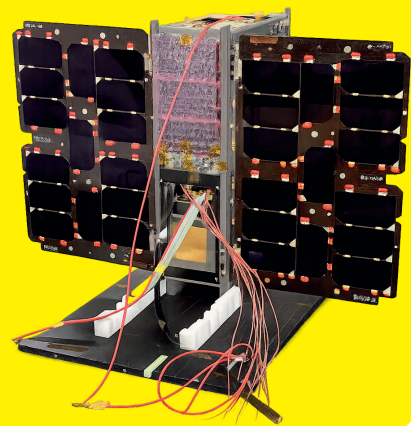
2030年代に宇宙関連産業を1000億円規模に拡大する目標を掲げる北九州市。その挑戦の中核を担う研究機関が、小型・超小型衛星の運用数で8年連続世界1位を誇る(九州工業大学(九工大))だ。このキャンパスから一人の若き創業者・佐藤凜が生まれた。かつて宇宙飛行士に憧れた少年が、超小型衛星のスタートアップを立ち上げるまでの道程とは。夢を追い続けた軌跡と、その先に描く未来図に迫る。

PHOTO_ 大崎直人 TEXT_ 片桐絵都
EDIT_ 後藤麻与

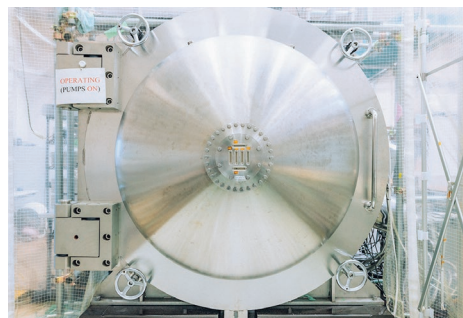
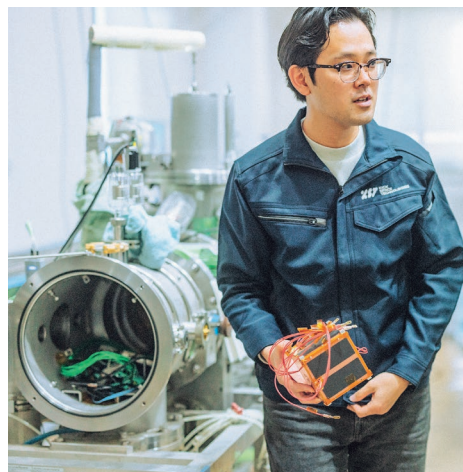
宇宙に
行くよりも
支える
人になる

2000年生まれ佐藤凜さん『宇宙兄弟』のアニメに感化され、小学6年で宇宙飛行士を志すようになる。しかし私立中学に進むと、同級生が目指す進路の多くは医学部。自分の夢が急に子ももっぽく感じられ、一度は想いを封じ込めた。高校に入り、将来を改めて考えた時、眼前に浮かんだのはやはり「宇宙」の2文字。とあるイベントで出会ったスペースデブリ(宇宙ゴミ)の回収を手がける企業の代表に「宇宙飛行士になりたいんです!」と想いをぶちまけた。すると「君1人が宇宙に行くのもいいけれど、君が会社をつくって1000人を宇宙へ送り出すことだってできるんだよ」と諭され、ハツとする。まずは宇宙産業を支えるものづくりを学ぼうと九工大工学部の宇宙システム工学科へ。入学後にめり込んだのは、飲料缶サイズに衛星の技術を搭載した「缶サット」づくり。「宇宙兄弟」の主人公・南波六太も作中で製作に取り組んだ模擬人工衛星だ。さらに学びを積み重ねていくと、宇宙業界のさまざまな課題が見えてきた。「君が会社をつくる道もある」というあの時の言葉が浮かぶ。そして卒業後の2025年、超小型衛星の設計から打ち上げまでを一貫して担うスタートアップ(Kick Space Technologies)を創業した。マンガ『宇宙兄弟』はあと一巻でラストを迎えるが、佐藤さんの物語はまだ始まったばかりだ。

ビジネスの相棒は 超小型人工衛星



小型衛星とは500kg以下の人工衛星を指し、100kg未満のものを超小型衛星と呼ぶ。従来の大型衛星に比べて短期間・低コストで開発できることから、近年活用が広がっている。佐藤さんが開発するのは、超小型衛星の中でも10×10×10cmの手のひらに収まるサイズを基本単位とした「CubeSat」という人工衛星。地球観測や通信ミッション、サイエンス観測など、さまざまな用途に対応する。



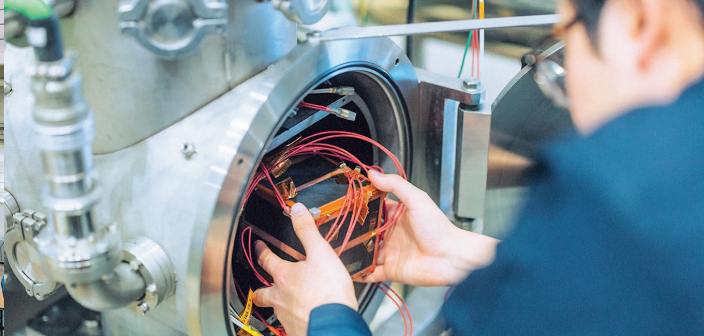
佐藤さんがオフィスを構えるのは九工大キャンパス内。メンバーは工学部宇宙システム工学科の学生と卒業生が中心で、16名が在籍。

〈Kick Space Technologies〉

福岡県北九州市戸畑区仙水町1-1
未来テラス4F

キャンパス内の
ラボから
革命を起こす!
佐藤凜さん





「宇宙を仕事にする」という現実的な選択

宇宙ビジネスとひと口に言っても、具体的なイメージは湧きづらい。
佐藤さんは漠然とした夢をどう仕事に変えていったのか。

START
宇宙に関わりたい！
その想いだけで
入学

02

第一線のエンジニアから ものづくりを学ぶ

学科の講師は、実際にイプシロンロケットやはやぶさの開発に携わった技術者たち。中高で宇宙の話ができる友人すらいなかった佐藤さんは「こんな天国があったとは!」と無心に学んだ。



01

入学後すぐに 缶サット専門のPJへ

過半数の学生が人工衛星開発に取り組む中、「人とは違うことがしたい」と、あえてニッチな缶サット専門の開発プロジェクトに参加。初めて宇宙業界のものづくりに触れ、面白さを知る。

03

留年から生まれた 新しい出会い

VCでのインターン中に、思うように単位が取れず留年。「正直、病みました」と佐藤さん。しかしその時入った天文学の研究室で、のちに自身の会社の技術顧問となる佐野圭助教に出会う。



九工大天文プロジェクト (AstroKIT)

05

メイドイン北九州の 超小型衛星を生み出す

アメリカの宇宙ベンチャーを視察してヒントを集め、卒業後に起業。(Fusic)などの地場企業と提携しながら、行政とも手を組み、宇宙産業に注力する北九州の地の利を活かしたサービス提供を目指す。



04

超小型天文衛星の開発が 起業の糸口に

佐野圭助教の指導のもと、通常10年以上かかる天文衛星開発を2年で実現する(JAXA)との共同プロジェクトに参加。超小型衛星と天文学者が抱える課題を知り、起業への道がひらける。



NEXT

北九州から宇宙へ!
佐藤さんの躍進は
止まらない



この場所があったから カタチにできた夢

「手のひらサイズの衛星で、宇宙業界を変えたい」



九工大の宇宙システム工学科には高い志を持つ仲間と超一流の講師陣がいる。さらに衛星をつくらせてすぐに試せる。世界初の「超小型衛星試験センター」もあり、この環境が佐藤さんの未来をひらいていった。

学の中で出てきたのが「宇宙ビジネスに必要な億単位の資金をどう調達するのか」という疑問。未上場の企業に出資するベンチャーキャピタル(VC)に着目し、1年間休学して東京のVC(East Ventures)でインターンを経験した。その後、遠隔でVCの業務を行いながら復学するも留年。落ち込む佐藤さんを友人が天文学の研究室に誘い、超小型天文衛星「VERTICES」の開発に参画。通常10年以上かかる天文衛星開発を2年で実現する(JAXA)をはじめとした研究機関との共同プロジェクトだ。超小型衛星とは100kg未満の衛星を指し、小さいものは手のひらに収まる。コストも開発期間も大幅に削減できるが、天体観測など高いスペックが必要な場合は大型になりがちだ。「天体現象には旬があり、そのタイミングでサクッと打ち上げたい。でも超小型の天文衛星メーカーは少なく、得られるはずのデータを逃しているかもしれない」と佐藤さん。VCのノウハウと衛星開発技術にこの課題感が加わり、「Kosmos Technologies」創業の舞台が整った。強みは超小型衛星をいちから内製できること。複雑な開発工程を一貫して担い、企業や研究機関をシームレスに支援する。九工大生のインターンが多く活躍するのも特徴で、後進の育成にも寄与している。さらに自身を育んだ北九州の街にも思い入れがあり、「地場企業で衛星開発のサプライチェーンを築きたい」と意気込む。宇宙飛行士になるという少年の夢は今、小さな衛星となつて北九州から打ち上げられた。

Aisatsu

プレイヤー
(jABBKLAB)

@nsb_aisatsu



音楽と一体化した パワームーブで未踏の世界へ

景色とか感じた温度をそのまま表現することです。正直、動きや形は自分にとっては道具でしかないの、それを使っていかに音楽と一体化するか。その瞬間にしか生まれない踊りを大事にしています。だから一回出したら、同じ踊りは一生できないと思います。

— 創造の源泉になるものは？

全部かなあ。ふとした時に目にするもの、耳にする音、とにかく何でもです。

— メイン拠点は水巻ですが、地元の八女でもダンスを教えているそうですね。生まれ育った場所で活動する意義とは？

八女みたいな田舎だと「ダンス」って聞いただけで身構える子がまだいるんです。その壁を取り払ってあげたい。難しく考えなくていいから、とりあえず遊ぼうよって。それが地元で頑張っている理由の一つですね。

— 野望を教えてください。

誰もやっていないことに挑戦したいです。「何それ、面白！」って言われるものを生み出したい。バトルで勝つのはもちろんですけど、例えばダンススクールと美容室と整骨院をくっつけた施設をつくるとか、自分が面白いと思える表現を追求していきたいですね。

— ご自身の強みはどこなところだと思いますか？

人からは「音楽性」って言われます。音楽には音程がありますよね。そこにパッチシ合わせた動きをしたいんですよ。カラオケの音程バーに合わせて踊るイメージです。高い音の時は高く飛びたいし、低かったらその分落とす。その音楽を自分なりに理解するように意識しています。

— ダンサーとして、表現の上で大切にしていることは何ですか？

セットされたムーブをするんじゃなくて、その時見た

若手表現者の頭の中

生まれ育った三都の街を拠点に、表現者として生きる道を選んだ若者たち。彼らの中には、どんな思考や衝動が渦巻いている？

PHOTO_大崎直人(ダンス)
TEXT_片桐絵都 EDIT_後藤麻与

宇宙スタートアップの創業者として
走ってきた佐藤さんが
今、スポンサーとして向き合う次の挑戦。



左 小林秀之さん
(KIT-AURORA)運営統括/九工大工学部4年)

右 麻生蓮人さん
(KIT-AURORA)渉外営業チーフ/九工大工学部2年)

横の繋がりが技術を発展させていく
小林「僕たち(KIT-AURORA)は2025年度から始動した火星探査機の開発を行う学生プロジェクトです。今回、佐藤さんにダメ元で資金提供をお願いしたら、快く引き受けてくださって。麻生「ローバーは1機製作するだけでも300万円かかります。これまではクラファンなどで資金調達をしていましたが、今年は鳥取やアメリカでの大会に挑む勝負の年。支援いただけて本当にありがたいです。佐藤「いやいや。(KIT-AURORA)の一部のメンバーがうちの会社でインターンとして頑張ってくれているので、お互いさまで。九工大って優秀な学生がたくさんいるのに、縦の繋がりはあっても横にはほぼ交わらないじゃない？ それがかすこく

もったいないかと思っていて。うちと(KIT-AURORA)が連携することで、僕ら自身の発展はもちろん、他の学生プロジェクトもノウハウを共有するようになったらいいなと思っています。今、感じている課題はある？
小林「昨年度は全員でのゼロスタートだったので、やりがいがあったしチャレンジングにもなれました。今年度はある程度ベイスができて分、安定はしますが新鮮さやモチベーションを保てるかどうか。佐藤「新入生には図面を渡さず、自分で考えてもらえば？ あるいは逆に完全オープンソースにして、早くから足並みを揃えた上で新機能の追加を全員で考えていくか。麻生「なるほど。アイデア次第ですね。

宇宙人材は家族のようなもの
佐藤「今の大きな目標は、さつき麻生くんが言っていたアメリカでの大会出場？
麻生「そうです。University Rover Challenge(URC)」という国際大会への出場に向けて調整を進めています。
佐藤「僕も会社をやっているけど、宇宙産業は一人じゃ成り立たないんだよね。だからこそ、お互い切磋琢磨して頑張ろうという意識が強い。宇宙人材「一つの家族みたいなと思う。これからもみんなで協力し合って、宇宙業界を盛り上げていきましょう！」
佐藤「僕も会社をやっているけど、宇宙産業は一人じゃ成り立たないんだよね。だからこそ、お互い切磋琢磨して頑張ろうという意識が強い。宇宙人材「一つの家族みたいなと思う。これからもみんなで協力し合って、宇宙業界を盛り上げていきましょう！」

北九州から、次は火星へ



佐藤凛さん
(スポンサー/
Kick Space Technologies)代表)



(KIT-AURORA)

九工大生43名による火星探査ローバー開発プロジェクト。今年3月には鳥取の大会に出場。現在、アメリカで行われる世界最高峰の火星探査機コンテスト出場を目指す。 <https://kit-aurora.jp>

第9回 僕たち私たちが 見たい街のあした

YMFGにも、街の未来のために何かできないかという熱い思いを持った若い社員が集まっています。街の未来、そして地銀のあるべき姿は、彼らがまなざす先にあるのかもしれない。今回は若手社員に3つの質問を投げかけました。

ILLUSTRATION_堀内えりか
EDIT_吉川月華



下松市が、山口県の住みやすいランキング上位に入っていること。(K.M./2年目/山口銀行 下松ブロック)



新しく三原内港が生まれ変わります！三原内港は、四国や瀬戸内の島々をつなぐ海上交通の拠点として長年にわたり親しまれてきました。施設の老朽化や利用者の減少が課題となっていました。新たな観光航路の開設や島の観光活性化に向けた受け入れ環境の整備も含め、2026年9月から解体工事が始まり、2028年度中に新しい港として生まれ変わる予定です。地域のさらなる活性化に向けて、今後の展開が楽しみです。(O.K./4年目/もみじ銀行 三原支店)



2026年2月14日・15日に、〈第32回城島酒蔵びらき〉が開催されました。メイン会場は久留米市の町民の森です。かつて「東の灘、西の城島」と称されるほど江戸時代から酒造りが盛んだった城島ですが、近年は酒蔵の廃業が相次ぎ、大きな岐路に立たされています。そんな中、今回は創業100年を超える地元の有名酒蔵8軒が参加。福岡県外からも多くの方が訪れ、14日だけで6万人が来場しました。(K.O./4年目/北九州銀行 久留米支店)

Q 街の最新ニュースを教えてください！



2025年8月に下関市立しものせき水族館〈海響館〉がリニューアルオープンし、〈星野リゾート〉が運営する〈リゾートレ下関〉も開業したことで、関門海峡周辺の景色が大きく変わりました。私が所属するワイエムリースの本社オフィスの窓から眺める関門海峡沿いは賑わいが増し、夜にはライトアップが水面に映え、より明るく美しい景色が広がっています。(A.K./3年目/ワイエムリース)



2026年3月に山口県宇部市の複合リゾートホテル〈ココランド〉内に「恐竜の森アドベンチャーSORACO」という体験型施設がオープンしました。動く恐竜や、ハーネスと滑車で長いワイヤーロープを高速で滑り降りる山口県内初の本格的ジップラインが設置され、大人から子どもまで楽しめる施設となっています。(K.K./3年目/山口銀行 東京支店)



2026年4月5日に開催された海峽ウォーク。今年で41回目を迎えるこの伝統のイベントに、昨年初めて家族と参加しました。東行庵から門司港を目指すコースに挑んだものの、運動不足がたたたり、長府駅でリタイアしてしまいました。今年こそ、ゴールの門司港まで歩き切りたいです。(H.N./4年目/山口銀行 IT統括部)



最近のビッグニュースは、〈広島ドラゴンフライズ〉がBプレミアのライセンスを取得したことです！Bプレミアとは、バスケットボールBリーグの中でも特に高い基準をクリアしたクラブだけが参加できる最上位リーグのことで、観客動員数や収益、試合会場の設備など厳しい条件が求められます。広島が一丸となってその基準を満たし、見事に認められました。さらなる高みを目指すチームを、私もファンとして変わらぬ気持ちで声援を送り続けます。(C.N./3年目/もみじ銀行 本店ブロック)

Q いつかYMFGでやってみたいことは？



街の発展には、人が集まる場づくりが欠かせないと感じています。北九州の活性化のために、地元イベントの企画・運営に積極的に携わってみたいです。(H.S./3年目/北九州銀行 三萩野ブロック)



マスコットキャラクターをつくってみたいです！地域の方にとって身近で親しみやすく、笑顔や安心を届けられる存在に育て、YMFGという存在をもっと多くの方に知っていただきたいです。(C.N./3年目/もみじ銀行 本店ブロック)



中学生・高校生を対象に、お金の仕組みや資産の増やし方など、金融に関する講義や講演をしてみたいです。(K.M./2年目/山口銀行 下松ブロック)

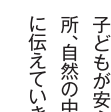


私は幼少期を山口県や広島県の各地で過ごし、「地元」という意識がないまま育ちました。しかし今は仕事を通じて広島・山口・北九州に携わる中で、この地域全体を自分の広い「地元」と捉えるようになりまし。お客様や銀行担当者の方々の皆と真摯に向き合いながら「地元」の発展に貢献できる存在を目指していきたいです。(A.K./3年目/ワイエムリース)



部活動の廃止や公園の減少・整備不足により、子どもが思いっきり運動できる環境が失われつつあると感じています。公園の草刈りやスポーツチームの設立などを通じて、子どもが体を動かせる場をつくってみたいです。(K.K./3年目/山口銀行 東京支店)

Q いつか見てみたい街の景色を教えてください。



今の子ども世代が「地元」に居続けたいと思える街をつくりたい。子どもが安心して自由に遊べる場所、友達と気軽に集まれる場所、自然の中で育つ環境を整え、山口県の魅力をもっと多くの人に伝えてみたいです。(K.M./2年目/山口銀行 下松ブロック)



人口減少が進む広島・山口・北九州が、逆にそれを原動力に変えていく未来を見てみたいです。人も企業も少なくなるからこそ、YMFGが掲げる「地域との共創」がさらに加速し、挑戦しやすい街へ。海峡と都市が繋がり、若い世代が活躍する力強い循環を、私自身もその一端を担いながらつくってみたいです。(A.K./3年目/ワイエムリース)



住む人が誇りを持って暮らせる街になってほしいです。そこで生まれたからではなく、「ここが好きで住んでいる」と言える人が多い街。歴史や街並み、文化や人柄、都会と自然など、さまざまな魅力に内包した街が理想です。(R.M./2年目/もみじ銀行 福山ブロック)

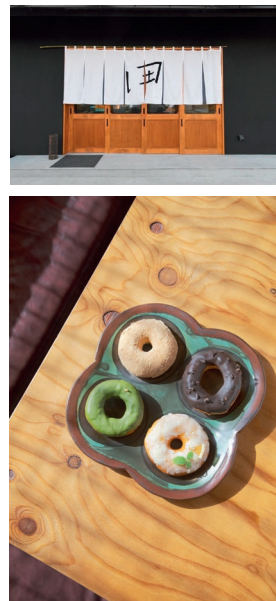


昔の三原市には映画館や大型ショッピングモールがあり、歩けば人と肩がぶつかるほど賑わっていたそうです。今は人口減少が進んでいますが、いつか三原市が昔のような活気を取り戻し、広島一楽しい街になってほしいです。(O.K./4年目/もみじ銀行 三原支店)



現在、川辺ではSUPやBBQなどのアクティビティを楽しむ人の姿が少しずつ広がっています。川辺での活動が日常に溶け込み、広島がもっと「川の街」として輝いてほしいです。(C.N./3年目/もみじ銀行 本店ブロック)





わたしを
変えた
住空間

理想の暮らしを求め、
三都へ移住した人々を訪ねました。



井本喜久さん・彩織さん
(50代 / 30代・〈田万里家〉代表)

- 「食」と「農」という共通のテーマに取り組んでいた喜久さんと彩織さん。東京で出会い、2022年に広島県田万里へ移住
- 2023年、地元農家の米粉を使ったドーナツ&ファームステイ〈田万里家〉開業
- 喜久さんの知人の古民家を改装し自宅に
- 息子の在くんと愛犬の源は同い年

Instagram :
@imocchan / @saorii0524

人が集まる温かな場を

宿・飲食店・農業・コミュニティ運営と幅広く活動。「〈田万里家〉を“田舎の家族”のように思ってもらえたら」

みんなでつくって食べる

畑でできた作物を、家で仲間と料理して食べる。「大勢で楽しめるようキッチンとリビングを一体化しています」

年中、春のような家

人にも環境にも優しい全館空調「F-CON」採用。「常に快適な室温が保てて、真夏も真冬もエアコンいらず」

コロナ禍、若年層の自殺率が戦後最大というニュースを見た。ショックだった。食べものをつくる術を知っていれば、極論、人は生きていける。そんなメッセージを発信したいと農業に携わり始めた矢先、夫に出会った。

「限界集落の農業を再生させる」という彼の夢についていったものの、最初は不安だった。都会暮らしに慣れている自分が、移住して生きていくことなどできるのだろうか。でも杞憂にすぎなかった。こだわりを詰め込んだ〈田万里家〉を開いて、古民家を快適に改装して、子どもも生まれて。田舎を「何もない」と捉える人がいる。けれど視点を変えれば「何でもある」ことに気づける。土に触れる豊かさ。仲間と一緒にごはんをつくって食べる温かさ。太陽とともに起きて眠る健やかさ。息子には「在(ある)」と名付けた。あのまま東京にいたら出会えなかった宝物たちに囲まれて、私は生きている。

For The Better

家の前の広大な畑を使ってドーナツの原料となる米を栽培。あくまで畑がメインで、自分たちの家は必要最小限の平屋に留めている。



山口県



里山でのんびりデトックス 〈霜降山カフェ〉の きまぐれ農園ランチ

宇部市民の憩いの山・霜降山のふもとにあるカフェ。山小屋のような佇まいで、やわらかな自然光がたっぷり差し込みます。地元の食材を使ったランチは、手作り豆腐や宇部牛のロールキャベツグラタンなど、ここでしか出会えない一品ばかり。野菜もたくさん摂れて、体が喜ぶ味わいです。こちらのオーナーは、お弁当の仕出しやゲストハウスの運営も手がけるパワフルな女性。料理の美味しさはもちろん、その温かな人柄に触れられるのも、足を運びたい理由のひとつです。

きまぐれ農園ランチ 2,300円(税込) ※20食限定
宇部市大字末信519 営:11:00~17:00(カフェは15:00まで) 休:火、水



山口銀行 西宇部支店 中山幸乃助

やっぱり握りたてがいちばん 〈あったか堂〉のおむすびとお惣菜

三萩野支店の近くにあるテイクアウト中心のおむすび屋さん。注文後にその場で握るスタイルなので、できたての熱々を購入できます。店主はおしゃべり好きで、握っている最中もマシンガントーク(笑)。「多めに入れとくね!」と、いつも具材をはみ出るほど詰めてくださいます。サイズはコンビニよりもひと回り大きめ。手作り感が伝わるふんわりとした握り加減です。さらに日替わりのお惣菜が充実しているのも嬉しいところ。仕事の合間にほっとひと息つける場所です。

あったかおむすび 焼タラコ 200円、生ハム&クリームチーズ 260円、豚汁 220円、惣菜各種 180円~(税込)
北九州市小倉北区白銀1-2-2 営:11:00~19:30 休:日
※イートイン4席。惣菜は日替わり。豚汁はない日もあります。

北九州



北九州銀行 三萩野支店 正代陽菜



広島県



白い湯気まで楽しみたい 〈カフェトレカサ〉の蒸籠蒸しランチ

酒蔵通りの古民家を改装した趣深いカフェ。「隠れ家」という言葉がぴったりで、最初は地図アプリがないとわかりづらいかもしれません。ランチの主役はバラエティ豊かな蒸籠蒸し。店内のあちこちでいい香りの湯気が立ちのぼっています。ご当地感を楽しむなら、広島産の牡蠣と旬の野菜を使った蒸籠蒸しを。素材本来の旨味と甘味が引き出されていて、牡蠣のプリッとした食感もたまりません。ボリュームはありながら、蒸し料理なのでヘルシー。罪悪感なく満腹になれます。

牡蠣の酒蒸し蒸籠セット 1,820円(税込)
東広島市西条本町16-24 営:11:00~18:00
休:第1・3火、毎週水



もみじ銀行 西条支店 渡木千尋

あしたのランチ何食べる?

What will you have for lunch tomorrow?

YMFG社員がリアルに通うランチの名店をご紹介します。今回は、体に染み渡るやさしい味わいのお店をピックアップ。心ほどけるランチタイムを過ごしてみませんか?

PHOTO_ 岩原俊一(山口・北九州)、小原実(広島) TEXT_ 片桐絵都 EDIT_ 天本季恵

ラブレター from

横浜				



「俳句コンクールと肉ごぼ天うどん」

母方の祖父がいる北九州・小倉には昔からちょくちょく遊びに行っていた。人生初のお付け屋敷は〈スペースワールド〉のエイリアンパニック。あのトラウマ級のグロさはいったい何だったのか。気づけば閉園して、ふたたび確かめる術はなくなった。

大人になっても、祖母に会いに定期的に足を運ぶ。滞在中はほぼ毎日〈資さんうどん〉へ。祖母は手抜きの意味で「資さんでいい?」と聞くが、こちらはぜひとも資さんがいい。食事中の話題は、だいたい生前の祖父のこと。理系男子でありながら文芸を愛で、大衆演劇の台本を自作し、市民会館を借りて一人で演じきったほどの強者だ(そのビデオを延々見せられた)。小学4年の頃、コンクールに俳句を出さねばならず、面倒くさくて祖父に詠ませた。「阿蘇の山 ゆらりゆらりと 馬の背な」。小4にこんな渋い句が詠めるはずないのだが、まづいことに入選。焦って電話すると「俺は詠んでない」と頑なに認めず、逆に私を褒めちぎった。

優しい嘘か、本当にボケたのか。帳尻を合わせねばと俳句や作詞作曲に奮起して、教師にも「児玉には文芸の才がある」と一目置かれるように。祖父への罪滅ぼしが今につながったのかもしれない。

祖父列伝は止まらない。大企業を定年退職後、退職金を当時たいへん高価だったオーディオ機器一式に全額使い果たしたこと。でも不思議と生活は困窮していなかったこと。労働をやめられない企業戦士で、定年後も〈小倉競馬場〉でいきいきとバイトしていたこと。化学反応式について質問すると、「それだけは知ったらあかん、この世の真理やけん」と神妙な面持ちで返してきたこと。変わり者だが、受容され、愛されていた私にとって、その存在は救いだった。

祖父が亡くなる間際、みんなでしみりとごはんを食べたのも資さんだ。肉ごぼ天うどんをすすっていると、湯気のもうに私を褒めちぎるあの笑顔が浮かぶ。

from 横浜

児玉雨子さん



作詞家・小説家。横浜出身。アイドルグループ、声優、テレビアニメ主題歌やキャラクターソングを中心に作詞提供。2021年に小説「誰にも奪われたくない／凸撃」(河出書房新社)を刊行。2023年「##NAME##」(河出書房新社)が第169回芥川龍之介賞候補作にノミネート。同年に「江戸POP道中文字粟毛」(集英社)、2024年に共著「私の身体を生きる」(文藝春秋)、2025年「目立った傷や汚れなし」(河出書房新社)を刊行。

Instagram: @amekokodama

ILLUSTRATION_黒木仁史

YAMAGUCHI
〈TONOBL〉

KITAKYUSHU
《博多曲物 玉樹》

HIROSHIMA
《Kamiora》



精円弁当箱
《博多曲物 玉樹》
福岡県粕屋郡志免町別府西2-2-16



ハット|ストール
コットン生地(洗濯可)
〈TONOBL〉
山口県防府市富海988-5



カップスリーブ|コースター
《Kamiora》
Instagram: @shifu_kamiora

三都の雑貨物語



N° 09
芝生の上に
伝統をひとさじ

差しも風も爽やかに受け止めてくれるはず。志免町には、400年以上受け継がれてきた柴田家の〈博多曲物玉樹〉があります。現在は父の跡を継いだ十八代目・柴田玉樹さんが精力的に活動中。金属は一切使わず、丁寧な手仕事で生み出されるしなやかな曲線は、まさに芸術。粋なピクニックを演出してくれます。かつて芝生の上で貴族たちが優雅に紅茶を飲み、サンドイッチをつまんだように。現代の貴族気分、三都でしか味わえない特別なピクニックに出かけましょう。

マット|コースター
《Kamiora》

1800年代、ヨーロッパの貴族の間で流行したピクニック。時代とともに、誰もが楽しめるカジュアルなイベントへと変わりました。コンピニでおにぎりとお茶を買って公園に行くだけで、もう立派なピクニック。自由度が高いからこそ、たまには少し趣向を凝らしてみてもいい? 今回は、三都ならではの伝統が息づく行楽雑貨をご紹介します。広島市を拠点とする〈Kamiora〉は、伝統織物「紙布」を用いたカップスリーブなどを展開。紙布とは和紙を糸状に燃やして織り上げた布のこと。和紙特有のほっくりとした質感と、遊び心のあるポップなカラーリングが新鮮です。防府市発の〈TONOBL〉は、「天然灰汁発酵建て」という古来の技法を用いた藍染めブランド。独特の色合いを落とし込んだリネンハットとストールは、強い日ネンハットとストールは、強い日

「三都の雑貨物語」では、毎月ひとつのテーマに沿って集めたものと、それにまつわるエピソードをご紹介します。過去のものも公式Instagramにあるのでチェックしてみてください。@ymfg_official

PHOTO_ 藤村祐紀(山口県) TEXT_ 片桐絵都 EDIT_ 後藤麻尋

山口市民の思い出の味々を未来へつなぐ 〈宝来屋〉の事業承継



1946(昭和21)年、山口市中河原に創業した〈宝来屋〉は、市民の日常に寄り添う“街のお菓子屋さん”として長く愛され続けてきました。時代の移り変わりとはさまざまな事情が重なり、2024年に廃業する予定と相談を受けたのは、山口銀行山口支店。市民の愛着と思い出がつまった味を途絶えさせまいと、担当者の金子は事業承継を提案。同じ山口市内で企画運営や広告デザイン事業を営む〈オオバククリエイティブ〉を承継先としてつなぎ、〈宝来屋〉の歴史と味を守るため、職人も従業員もそのまま引き継ぐ形でスピード感を持った事業承継が実現しました。



金子祥太
山口銀行 山口支店



事業承継に伴い、ロゴや店舗はリニューアル。一方で、看板商品のシュークリームは味もパッケージもそのままに。シュークリーム / 350円(税抜)。

INFORMATION

宝来屋

住所：山口県山口市中河原3-3 Instagram：@houraiya.yamaguchi



地域金融機関によるSIB事業

「山口市ずっと元気プロジェクト」

YMFG ZONEプランニングは山口市内の事業者と連携し、高齢者を対象としたQOL向上や社会活動への参加につながるプログラムを2025年12月から5年間実施します。社会課題解決のために民間資金とノウハウを活用する官民連携の枠組みである、成果連動型民間委託契約方式(PFS)の一種であるSIB事業において、地域金融機関が担い手となる事例は全国初。2026年2月に〈湯田温泉こんこんパーク〉で開催した体験会では、山口市内に拠点を置く10の事業者が、スナックでの交流やドローン体験、eスポーツなど、多様なプログラムを展開。地域経済の活性化も期待されます。



西野紗也加
YMFG ZONEプランニング

全国初!

Instagram もチェック!

マガジンの裏話から、暮らしに役立つ情報まで。街のあしたを照らす最新トピックスを配信中!



街にできた新しい施設から、YMFG 社員の働き方まで。YMFG 社員が明日につながる最新トピックスをお届け。

Growthでアイデアの事業化に挑戦！ 受賞者の軌跡を辿ってみよう。

YMFGの社員が自ら起案した新規事業の実現にチャレンジできるプログラム。今年の受賞者にインタビューしました。

★ グランプリ ★

わたしたちの新規事業案

部署を超えた連携によるチーム力で大学の研究技術をビジネスプランに

見事グランプリを受賞したのは、YMFGキャピタルの野崎がリーダーを務める他部署連携によるチーム。YMFG ZONEプランニング・山口FG地域共創室からの参加メンバーに加え、九州工業大学の社会実装本部のメンバーも加わり、経験や専門知識が異なる多彩な顔ぶれが集結しました。通常業務の中で、大学発ベンチャーへの投資業務や研究の事業化支援に取り組む野崎。Growthをきっかけに事業案を“チームで”ブラッシュアップできたことにより、事業化に向けた動きを加速させられたと振り返ります。営業店の協力を得ながら取引先企業へのヒアリングを重ねるなど、YMFG全体でGrowthの挑戦者を支える環境がチームの歩みを後押ししてくれたようです。



野崎維摩
YMFGキャピタル

最新のAI技術を使って地域の製造業を支援

九州工業大学の徳永旭将教授は、製造業における外観検査の自動化をテーマに「現場で使えるAI」技術の研究開発を推進しています。同大学がその社会実装に向けた活動を進める中、YMFGが持つネットワークや部署を超えたりリソースを組み合わせ、技術と製造現場の橋渡し役を担うことで、地域の製造業を後押しする事業プランの実現を目指します。

★ オーディエンス賞 ★

わたしたちの新規事業案

高卒・第二新卒と地域の企業をつなぐマッチングサービス

人口の流出や少子化が進む地方において、人手不足と離職率の高さは企業にとって深刻な課題です。一方、高卒生の就職活動は自由競争の仕組みが限られており、高卒・第二新卒の方々も再出発の場を探る中でさまざまな困難に直面しています。企業と求職者、双方の実情を丁寧に把握、一人ひとりの特性に合ったマッチングを実現することで、地域の雇用と定着を支えるサービスを目指します。



松山竜馬
もみじ銀行 福山支店

入社半年でGrowthに挑戦！ 事業とともに自身も成長

新卒1年目の二人チームで挑んだ松山。応募のきっかけは、2025年度から始まった若手向け制度「Growth Journey」への参加でした。そこで新規事業への挑戦意欲が高まり「Growth」へのエントリーを決意。当初の提案はビジネス化の検討が十分ではなかったようですが、Growth事務局や外部メンターとの話し合いを重ねる中で、多角的な視点からビジネスの可能性を磨き上げることができたと振り返ります。Growthの参加を通じて「顧客にどんな価値を提供するのか」という視点を考え抜いた松山は、今後もブラッシュアップを続けながら、通常業務においても顧客への価値を深く考えて活動したいと話しました。



毎日肉。
たまに洗濯。



広島県発、ユニークな新しい土産物
独自の圧縮加工で本物のような質感
光の「HONTOWA Tシャツ」

使用方法	手でほぐす、あるいは水につけるとTシャツに
素材	綿100%
サイズ	M・L
価格	¥3,300 (税込)